



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の提供を目的として、発行していきます。

## 平成26年度 第1回授業改革実践研修会

日時：平成26年6月26日（木）実施  
対象：高知市立潮江中学校教職員  
及び高知市立学校参加希望教職員

### 目的

- ・ 通常の学級で授業における特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の在り方を学ぶ。
- ・ 魅力ある「分かる授業」を創るため、授業力の向上を図る。

### 研修Ⅰ【公開授業】「南海トラフ巨大地震を生きる」

授業者：潮江中学校 三浦 洋志 教諭，岡林 永祥 教諭

- 1 題材名 「南海トラフ巨大地震を生きる」
- 2 目標
  - ・ 命を守る行動や避難行動，避難所，避難生活について考える。
  - ・ 東日本大震災を新聞から読み取る。



全体的には授業に真面目に取り組む生徒が多い。ただ、生徒の中には、丁寧な手立てや支援が必要な生徒が数人いる。本時では、すべての生徒が自分の考えや思いを発表できることを目標として、映像や写真，実物教材を取り入れたり，発問を工夫したり，またグループ学習を仕組むようにした。



### 【参観者の感想・意見】

- ・ 身近な場所の写真や実物教材を提示することで，生徒は身近な問題として考えることができていた。
- ・ 学習内容が多く設定されていて，生徒に考えさせる時間が多くとれていたことがよかった。
- ・ グループで活動するときの生徒同士の距離感が近く，話し合いが活性化していた。

### 研修Ⅱ【講評・講話】「授業における特別な教育的支援を要する生徒への指導の在り方について」

全体講師：高知大学 是永 かな子 准教授



### 机間指導でできること

- ① 個別の賞賛  
「ノート開いているね」「ちゃんと書けているね」など子どもに伝わる方法でほめる。
- ② 実態把握  
子どもがつまづいているところを把握する。適宜，ヒントを与える。
- ③ 個別の注意喚起  
寝ている子は起こす。起こしたら，何をするかも指示する。
- ④ 励まし  
子どもの頑張りを認め，さらにできそうなことに取り組ませる。
- ⑤ 関わり方のモデルの提示  
授業者が，支援を要する子どもへの関わり方のモデルを示す。関わることを少しずつ他の子どもに移行させる。

### 机間指導の極意

机間指導をするときは腰を低くして子どもたちと目線を合わせるべし



どの子にも1分ずつ関わる「形式的平等」ではなく，より支援を要する子どもには3分関わる「実質的平等」を自信をもって実践してほしい！



子どもたちが「聞く必然性」や「見る必然性」を感じられるよう，学習活動に巻き込むことが大切！

1時間の授業の中で，1回でもいいから子どもに発言させる機会をつくる。そのために，復唱やペア学習を取り入れるのも有効！

裏面では，是永先生に教えていただいた，子どもの特性・支援ニーズに応じた授業づくりのポイントをご紹介します。



## 通常の学級で授業における特別な教育的支援を必要とする子どもへの指導例

### LD（学習障害）傾向のある子どもへの指導例

| 導入場面   | 展開場面   | まとめ場面   |
|--|--|---|
| <p>聞くだけでは、何を言っているのか、分かりにくいなあ。</p> <p>説明している言葉が理解できないことがあるので、具体物や視覚教材を利用する。</p> | <p>授業が全然分からないから、つまらないなあ。</p> <p>学習に活動を組み込んだり、選択肢の問題を全体に問いかけ、挙手させる等、学習に巻き込む工夫をする。</p> | <p>本時で学習したことをまとめる時間を必ず設ける。まとめを板書する等、子どもたちが確実に学習のまとめを意識できているか確認する。</p> |

### ADHD（注意欠陥多動性障害）傾向のある子どもへの指導例

| 導入場面  | 展開場面   | まとめ場面  |
|---|--|--|
| <p>落ち着いて席に着いているのが苦手。ついついおしゃべりをしてしまう。</p> <p>分からないことは、隣の人に聞いてもよい、と緩やかに対応する。</p> <p>5分以内のペア学習やグループ学習は有効。板書を写す時間をきちんと保障する。</p> | <p>子どもにとって受動的な授業（勉強）ではなく、能動的な学びとなるよう転換する。</p> <p>ペア学習やグループ学習など、子ども同士の関わりを保障する。グループにおけるよい関わりを褒める。思考の結果だけでなく、思考の過程を評価する。</p> | <p>本時で学習したことをまとめる時間を必ず設ける。まとめの方法は、「教師が読んだうえで復唱させる」「子どもに読ませる」など、動作を起こさせる。時間がなければ「先生が大きな声で読む」などでもよい。</p> |

### HFA（高機能自閉症）傾向のある子どもへの指導例

| 導入場面   | 展開場面  | まとめ場面  |
|--|---|--|
| <p>今日は、どんな学習をするのかなあ。</p> <p>子どもの立場で、学習の見通しを視覚的に示す。授業で何を求めるかを子どもに提示し、安心させる。</p> | <p>先生の話をつただ聞くだけの授業は苦手。</p> <p>写真などの掲示物や実物教材を活用するなど、視覚的支援を保障することで、子どもの理解を助ける。授業の途中からでも子どもが参加できる授業をつくるのが大切。</p> | <p>学習のまとめは、板書するようにする。視覚的に示して、子どもが後で復習できるようにする。</p> |

#### 【受講者の感想】

- ・ 是永先生の「教師が支援方法のモデルになる」というお話がとても参考になった。
- ・ 視覚支援、机間指導の大切さを学んだ。意見を引き出して、他の子どもへつなぐことを意識していきたいと思う。
- ・ 特別な支援を要する子どもに対する指導を心がけることで、学級全体の子どもが理解しやすい授業になることが分かった。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。